

住所：台北市慶城街28號 通泰商業大樓
 TEL：02-2713-8000 FAX：02-2713-0705
 HP：<http://www.koryu.or.jp/nihongo>（日本語センター）
 E-mail：nihongo@mail.japan-taipei.org.tw
 発行：財団法人交流協会日本語センター
 編集：堀越和男・余啓夫 編印：加政印刷有限公司

台湾における日本語関連の大学院 2 - 夜間社会人コース（碩士在職專班） -

（財）交流協会日本語専門家 中尾真樹

「いろは」12号（2003年9月20日発行）において、台湾における日本語関連の大学院を特集した。本号ではその続編として、大学院の夜間社会人コース（碩士在職專班）を紹介する。

教育部（「文部科学省」に当たる）は1998年（民国87年）に発表した『邁向學習社会白皮書』において、生涯學習の普及をめざし、一度学校を離れた人々に再び教育の機会を提供する、いわゆる「回流教育」を推し進める方針を明らかにした¹。翌年には大学の進学専修班・大学院の在職專班設置を認可するなどの具体策を打ち出し、多くの大学に社会人向け修士コースが生まれた²。

日本語関係では、まず1999年（民国88年）に淡江大学日本研究所（大学院）が碩士在職專班を設置し、東呉大学と高雄第一科技大学がこれに続いた。以下、この3校についてカリキュラムの内容・特色などを紹介する。

1. 淡江大学日本研究所 碩士在職專班

(<http://www.jp.tku.edu.tw/> 参照)

淡江大学日本研究所は、他大学に先駆けて1999年（民国88年）に碩士在職專班を開設した。日本研究所は外国語文学院ではなく国際研究学院に所属しており、地域研究を中心としたカリキュラムを組んでいる。学生は2年次から三つの専門領域に分かれるが、「日本法政」「日本経貿」「日本社会文化」という領域名からもわかるように、日本語・日本文学研究とは一線を画した内容を特徴とする。

このようなカリキュラムを反映して、学生は日本語教育関係よりも日系企業や日本と取引のある台湾企業の会社員が多数を占める。大学時代の専攻も政治・経済・法律・企業管理など幅広く、カリキュラムに対する要望はきわめて多様であ



淡江大学のシンボル - 「覺軒教室」と「覺軒花園」

る。そのため、学生を対象にアンケートを実施し、開講科目の設定などに反映させている。

なお、2006年（民国95年）から外国語文学院日本語文学系の修士コースがスタートするので、教育内容の差異化を図る意味でも、地域研究により特化していく方針である。

淡江大学科目一覧

第1・2学年	日本法政方面包括
	日本人權與政府組織研究
	日本國憲法與比較憲法學
	日本國憲法與人權公約
	日本經貿方面包括
	戰後日本的經濟與貿易
	新日本企業策略
	新日本式經營
	日本の政治經濟學研究
	日本的總體經濟研究
	日本社會文化包括
	日本文化專題研究
日本近代化思想研究	
現代日本教育改革	
第2学年	論文

第2学年から「日本法政」「日本経貿」「日本社会文化」の3コースに分かれるが、所属するコースにかかわらず、どの科目も履修できる。授業時間は月曜日から金曜日まで一日2コマ(4単位)である。また、昼間部の科目を履修することも可能である。修士論文は日本語・中国語のどちらかを選択することができる。

毎年20名を募集しており、受験するためには大学卒業またはそれと同等の資格と、2年以上の在職証明が必要である。入学試験は書類選考の上、筆記・面接を課す。

2. 東呉大学外語学院日本語文学系 碩士在職專班

(<http://www.scu.edu.tw/japanese/> 参照)

東呉大学日本語文学系では、2001年(民国90年)に社会人向け修士コースを設置した。日本語文学系は、開設以来日本語教師養成を明確な目標として打ち出しており、碩士在職專班のカリキュラムも同様の理念に基づいている。このため、学生の8割以上が日本語教師を目指しており、実際に日本語教育に携わっている学生も多い。近年、日本語教師に修士以上の学歴が求められるようになってきているという実情を反映し、大学卒業後キャリアを積んだ日本語教師が、さらなるステップアップを目指して受験するケースも目立つ。

カリキュラムは、昼間部の科目構成をベースにして日本語教育関係に絞り込んだ内容である。時間が限られている夜間部であっても、日本語教師を目指す学生に昼間部と同等の学習内容を提供するための配慮がなされている。これは東呉大学日本語文学系ならではの特色と言える。

東呉大学科目一覧

第1学年	日本文学研究
	日本語学研究
	語言學概論
	日本語音研究
	研究方法論
	日語教學法研究
第2学年	日本文化研究
	翻譯研究
	日本文学研究
	日本語学研究
	論文寫作指導
	日語教育資料研究
	日語教學法研究
	論文

昼間部のカリキュラムには、これに日中比較言語学・日中比較文化研究とコンピューター関係の科目が加わるが、それ以外はほぼ同じ科目構成となっている。授業時間は月曜日から金曜日まで一日2コマ(4単位)である。受講者数が足りず開講されなかった科目に限り、昼間部の授業を履修することが可能である。修士論文は日本語・中国語どちらかを選択できる。

毎年17名を募集しており、受験するためには大学卒業またはそれと同等の資格と、2年以上の在職証明が必要である。筆記試験の後、書類選考および面接試験を課す。

3. 高雄第一科技大学应用日語系 碩士在職專班

(<http://www.nkfust.edu.tw/~unit15/chinese/> 参照)

高雄第一科技大学外語学院应用日語系では、2002年(民国91年)に社会人向けの公開講座修士科目等履修コース(推廣教育碩士学分班)を設置し、翌年碩士在職專班を開設した。南部では現在唯一の社会人向け修士コースである。

応用日語系ということで、学生は日系企業の社員が多く、業種もサービス業・貿易関係から理系の技術者まで様々である。これに日本語教育関係も加わるので、授業内容に対する学生の要望は非常に幅が広い。このようなニーズに応えるため、多数の科目が用意されており、内容も日本語学から政治・経済産業まで多岐にわたる。

高雄第一科技大学科目一覧

第1学年	日語教育專題研究 ·
	中日語言文化比較研究 ·
	翻譯理論與實踐 ·
	日本産業社會專題研究
	日本人力資源管理專題研究
	日本政經專題研究 ·
	台日社會與文化比較研究
	台日近現代文明比較研究
第2学年	日本風土專題研究 ·
	日本文化史研究 ·
	日語教育史專題研究 ·
	日語語法教授法 ·
	翻譯實務專題研究 ·
	台日勞資關係比較研究
	日本勞工問題專題研究
	台日關係比較研究 ·
第1·2学年	日本文學、文化研究 ·
	日本文化構造專題研究 ·
	台日異文化交流專題研究 ·
	論文

上記の科目の中から各学期4科目が開講される。授業時間は月曜日から金曜日まで一日1コマ(3単位)である。また、昼間部の科目を履修することが可能である。修士論文は日本語・中国語のどちらかを選択することができる。

なお、在職専班に入学する以前に科目等履修コースで取得した単位は、既修単位として認められる。このシステムをうまく使えば、在学中の履修単位数を減らして、その分修士論文により多くの時間を割り当てられる。在職専班開設後2年で卒業生を出しているのは、この制度によるところが大きい。

毎年22名を募集しており、受験するためには大学卒業またはそれと同等の資格と、1年以上の在職証明が必要である。書類選考・筆記試験の後、面接試験を課す。

4. まとめ

以上、現在開設されている日本語関係の夜間大学院を紹介した。これらの3校はそれぞれ独自の方向性をもっているが、その一方で共通する問題も抱えている。学生の日本語能力にかなりの開きがあることである。いずれの大学も、講義は日本語と中国語で行われるが、中国語をメインに使用していても、日本を研究対象とする以上かなりの日本語能力が必要となる。淡江大学・高雄第一科技大学の場合、高等教育機関で日本語教育を受けた経験のない学生の割合が比較的多い。そのような学生は、職業上の専門領域に関する日本語は問題ないが、幅広くさまざまな科目を受講するには困難を感じるであろう。東呉大学では学生の8割が日本語教師を目指しており、日本語学科の卒業生が多数を占めるが、やはり同様の問題に苦慮している。基礎的な日本語力が不足している学生をフォローするための対応策が必要と思われる。

今回、各大学の先生方と在学生への取材を通して、授業の雰囲気なども知ることができた。学生は週に2・3日、仕事が終わってから大学へ行き、10時近くまで授業を受ける。修士論文を書く際には、このほかにも資料収集や調査に時間をかけなければならない、さらに負担が大きくなる。これだけハードなスケジュールにもかかわらず、非常に熱心に授業に臨んでいるのは、学生それぞれがはっきりした目的意識や向上心をもっているためであろう。夜行バスなどを利用して遠隔地から通ってくる学生も少なくないようで、学習意欲の高さがかがわれる。

今後、日本語関係の夜間大学院が増加していくかどうかは、今のところ未知数である。社会人が修士号を取得することでどのような可能性が開けるのか、大学はどのような教育体制

を整えるべきなのか、検証すべき事柄は多い。碩士在職専班のありかたを考える上で、淡江大学(地域研究)・東呉大学(日本語教育)・高雄第一科技大学(応用日語)という路線の異なる3校の今後の発展が注目される。

取材に協力してくださいました関係各位に、心よりお礼申し上げます。

(参考文献)

- 1 教育部(1998)「第三部分 建立終身學習社会的具體途徑」『邁向學習社會白皮書』
- 2 教育部(2004)「貳 我國近十年高等教育之發展」『我國研究所教育定位及未來發展專案報告』

台灣日語相關的研究所 2

- 碩士在職專班 -

(財)交流協會日本語専門家 中尾真樹

「いろは」第12期(2003年9月20日発行)以特集的方式介紹了台灣日語相關的研究所。本期做為其續篇，將介紹碩士在職專班。

教育部於1998年(民國87年)所發表「邁向學習社會白皮書」中明確提出了所謂推動「回流教育」的政策，也就是以普及終身學習為目標，提供已經離開校園的社會人士再次學習的機會¹。次年並訂定允許設立二年制在職班、碩士在職專班等多項具體政策，於是許多大學開設了在職人士的碩士課程²。

在日語方面，淡江大學首先於1999年(民國88年)在日本研究所中成立了碩士在職專班，其後東呉大學、高雄第一科技大學也分別設立。以下針對這三所學校的課程內容、特色等加以介紹。

1. 淡江大学日本研究所 碩士在職專班

淡江大學日本研究所於1999年(民國88年)設立碩士在職專班，為其他大學的先驅。日本研究所不納入外國語文學院而是屬於國際研究學院，並以區域研究為中心規劃課程。學生自第二年起分屬「日本法政」、「日本經貿」、「日本社會文化」三項專業領域，由各領域的名稱可以瞭解到課程內容與日語、日本文學研究是有所區隔的，而這也就是它的特色。

或許是反映了這樣的課程規劃，學生多數是在日系企業及在與日本有貿易往來的台灣企業工作的上班族，具日語教育相關背景的人反而是少數。他們在大學時代主修的是政治、經濟、法律、企業管理等不同領域，對於課程規劃也有極為多樣的需

求。因此，學校特地對學生進行問卷調查，並將其結果反映於開課科目的設定等方面。

自2006年(民國95年)起，由於外國語文學院將增設日本語文學系碩士班，為求教學內容有所差異，課程規劃愈趨著重於區域研究。

從第二年起分成「日本法政」、「日本經貿」、「日本社會文化」三組，但不論哪一組皆可選修他組的科目。上課時間為週一至週五每天2堂課(4學分)。此外，也可以選修日間部的科目。碩士論文可用中文或日文書寫。

每年招收20名學生，報考者必須大學畢業或具同等學力並有兩年以上工作經驗。通過書面資料審查者，方可參加筆試及面試。

2. 東吳大學外語學院日本語文學系碩士在職專班

東吳大學日本語文學系於2001年(民國90年)設立碩士在職專班。日本語文學系自創系以來就以培養日語師資為主要目標，在職專班的課程規劃也基於相同理念。因此，有8成以上的學生志在成為日語教師，而實際上從事日語教育工作的學生也很多。近年來，可以看到許多具大學學歷也累積不少教學經驗的日語教師為求自我提升而來報考的例子，反映出日語教師必須具備碩士以上學歷的現況。

課程規劃與日間部相近，但更偏重於日語教育方面。即使夜間部上課時間有限，學校還是盡可能地提供這些將來想要成為日語教師的學生與日間部相同的學習內容。這可說是東吳大學日本語文學系獨有的特色。

相較於日間部，除了沒有日中比較語學、日中比較文化研究以及一門與電腦有關的科目之外，其餘的科目幾乎都相同。上課時間為週一至週五每天2堂課(4學分)。只有選修人數不足無法開課的科目，才能夠到日間部修課。碩士論文可用中文或日文書寫。

每年招收17名學生，報考者必須大學畢業或具同等學力並有兩年以上工作經驗。通過筆試者，方可參加書面資料審查及面試。

3. 高雄第一科技大學應用日語系碩士在職專班

高雄第一科技大學外語學院應用日語系於2002年(民國91年)成立以社會人士為對象的推廣教育碩士學分班，並於次年開設碩士在職專班，是現在南部唯一的在職人士的碩士課程。

由於是應用日語系，學生以日系企業的職員居多，行業類別各式各樣，從服務業、貿易到理科的技術人員都包括在內，當然也有日語教育相關職別的學生。這些不同背景的學生對於課程內容有相當多樣的需求。為了滿足這樣的需求，學校安排

了許多科目，內容也從日本語學到政治、經濟產業等涵蓋各個方面。

每學期開第2頁右下方所列相關科目的4門課。上課時間為週一至週五每天1堂課(3學分)。此外，也可以到日間部修課。碩士論文可用中文或日文書寫。

學分班學生預先修讀的學分於考取碩士在職專班時可辦理學分抵免。若能充分利用這項制度，則在學中必須修讀的學分數將會減少，如此一來便有更多準備論文的時間。在職專班設立兩年就已經有畢業生，大多歸因於有了這項制度。

每年招收22名學生，報考者必須大學畢業或具同等學力並有1年以上工作經驗。通過書面資料審查、筆試者方可參加面試。

4. 總結

我們已經介紹了所有已設立的日語相關的夜間部研究所。這三所學校偏重的領域各不相同，卻有著共通的問題。那就是學生日語程度的差距過於懸殊。這幾所學校都是使用日文及中文授課，由於是以日本做為研究對象，即使在課堂上主要使用中文講授，學生也必須具備相當程度的日文。在淡江大學、高雄第一科技大學，不會在高等教育機構接受日語教育的學生的比例相對較高。這種背景的學生即使擅長與工作專業領域有關的日文用語，要修讀涵蓋各領域的科目或許還是會感到困難。而在東吳大學，儘管有8成的學生志在成為日語教師，日語系畢業生也佔多數，仍然是有同樣的問題。對於基礎日語能力不足的學生，是需要採取適當的對策來加強他們的程度了。

這次透過與各大學老師及在學學生的訪談，除了課程規劃方面之外也瞭解到他們上課的情形等等。學生每週有兩、三天，下班後去大學上課，要到將近10點才下課。寫碩士論文期間，還必須花時間蒐集資料、做調查，負擔更重。儘管時間的安排是如此緊湊，學生還是非常認真上課，這應該是因為他們很有進取心也很清楚自己進研究所的目的。擺脫搭乘夜間的長程客運等遠道通學的學生也不少，可知他們學習的意願相當高。

日語相關的夜間部研究所今後是否持續增加，仍是未知數。社會人士在取得碩士學位後能夠開展出何種可能性、各大學又該如何調整教育體制等，必須驗證的事項還很多。淡江大學(地域研究)、東吳大學(日語教育)、高雄第一科技大學(應用日語)這3所學校著重的領域各不相同，它們的發展將是今後推展碩士在職專班重要的參考指標。

這次的訪談承蒙各校相關人士多方協助，在此致上最誠摯的謝意。

第2回「自分の授業を意識化しよう！」

横溝紳一郎（広島大学大学院教育学研究科助教授）

[授業の意識化って何だろう?]

日本語教育の現場で真剣に向き合っている教師は、真剣であればあるほど、授業の準備・クラスでの授業・その他の指導等に追われ、時間的な、そして精神的な余裕がなくなることが多いです。そのような状況に置かれると、ちょっと離れた所から自分自身の教え方を分析し、改善すべき点があれば改善していくといった、教師にとってはごく当たり前の行為から縁遠くなってしまふことが少なくありません。ここで重要なのが、「授業の意識化」です。授業の意識化とは、教師が自分自身の授業中の言動を把握することを指します。授業を行っている教師にとって、自分自身の言動を把握することは、実はやさしいことではありません。例えば、読者の方々は、以下の項目について、ご自分の授業中の言動をしっかりと把握しているでしょうか。

- ・媒介語としての、学習者母語の使用（媒介語を、いつ・どのくらい・どのように使っているのか）
 - ・日本語の使用（どんな日本語を、どのくらい使っているのか）
 - ・フィードバック（学習者に、どのように反応しているか）
 - ・視線（どこを見て授業を進めているか）
 - ・立ち位置・動き（どこに立って、どのように動いているか）
 - ・指名（誰をどのように当てているか）
 - ・非言語表現（どんな表情・ジェスチャーを使っているのか）
- いかがでしょうか？思ったよりも回答しにくかったのではないのでしょうか。これらの言動について意識化することは、「いい授業」の実現への第一歩です。

日本語授業の改善を目指すならば、二つのことを明らかにする必要があります。それは、「(1) 自分の現状」、そして「(2) 自分の目標」です。自分の現状を知り、自分の目標と比較できれば、その間にある隔たりを実感できます。この隔たりを埋める／小さくする行為こそが、「授業改善」と呼ばれるものなのです。目標を達成するためには、まずは己を知るところから始める、というわけです。

[どうすれば授業を意識化できるのだろう?]

教師が自分の授業を意識化するための方法について、谷口・石井・田中（1995）は、以下の方法を挙げています。

自分の授業の具体的事例に基づく評価・改善のための活動

- ・ビデオ・音声テープに記録して授業観察を行なう
- ・他教師に授業観察とコメントをしてもらう
- ・教案作成及び授業後の反省
- ・チェックリストによる自己評価
- ・学習者からの評価を得る（アンケート、評価票、直接聞く）

自分の授業を直接検討はしないが、間接的に授業に役立てる活動

- ・他の教師の授業を見学する
- ・教材（自分のもの・他教師のもの）を検討する
- ・同僚等との相談・意見交換をする
- ・学習者の希望やニーズを調査する
- ・父母の希望を聞く
- ・学習者によるコース評価

その他全般的な向上を目指した活動

- ・研究会・勉強会への参加
- ・文献等を読む

これらに加えて、「ティーチング・ポートフォリオ(Teaching Portfolio)」や「アクション・リサーチ(Action Research)」等も、最近注目を集めています。（詳しくは、横溝 2000, 川口・横溝 2005, 春原・横溝 2005 をご参照ください）

[授業の意識化と自己理解]

自分の授業中の言動を意識化してみると、自分が理想としている授業、そしてそれを実現している教師像との大きな隔たりに、気持ちが落ち込んだりすることも出てきます。そこで必要なのが、共に意識化を試みていく「仲間」の存在です。同じ方向に向かって努力をし続ける仲間がいることによって、自分ひとりでは見えなかったものも見えてきたり、辛いときに励ましあったりすることが出来ます。

私は教師教育を専門としているのですが、これまでの体験から、仲間と協働的努力をし続けている教師に共通する、ある傾向があるように思います。それは、「日本語教師としての自分の未熟さを痛感する気持ち」が、「教師としてまだまだ発展途上である自分の現状を認めるものの、成長を続ける自分自身を誇りに思う気持ち」に変わることです。この気持ちの変化は、教師にとって、とても大きなもので、私は読者の皆さんにも、是非これを体験していただきたいと思っています。「授業の意識化から自己理解へ」、そのための第一歩を、今日の授業から、仲間と一緒に踏み出してみませんか。

(参考文献)

- 川口義一・横溝紳一郎（2005）『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上巻・下巻』ひつじ書房
- 谷口すみ子・石井恵理子・田中幸子（1995）「ワークショップ 日本語教師の自己点検」『タスク日本語教授法』日本語教育学会編、凡人社、228-229.
- 春原憲一郎・横溝紳一郎（2005）『日本語教師の成長と自己研修：新たな教師研修ストラテジーの可能性をめざして』凡人社近刊
- 横溝紳一郎（2000）『日本語教師のためのアクション・リサーチ』日本語教育学会編、凡人社

2005 年日本留学フェア

6月10日・12日、2005年日本留学フェアが高雄・台北において開催された。このフェアは台湾における日本留学展としては最大規模のものであり、日本留学に関する最新の情報を総合的に提供する機会となっている。来場者数は、高雄463名（昨年570名）、台北1,441名（昨年2,350名）と、昨年より1,000名ほど減少したが、一人一人の対応により時間をかけることができたため、留学希望者には好評であった。来場者減少の原因については、当日の雨や面談ブースの減少などいくつか考えられるが、台湾政府教育関係者の分析では、少子化に加え台湾国内の大学の増加による大学全入時代を目前にして、留学を希望する学生の絶対数が減少していることもその要因としてあげている。

2005 年 国際学術検討会

7月2日、3日の二日間にわたり、東海大学にて「台湾・韓国・沖縄で『日本語』は何をしたのか？」というテーマのもと、2005年国際シンポジウムが開かれ、台湾・日本をはじめ、様々な国から100名を超える参加者が集まった。一日目は日本・韓国の8名の先生方による報告会が行われ、「言語と知識の編成史」を共通トピックに、歴史の流れを追いながら各報告と活発な討議がされた。二日目は、「ここからどこへ行くのかー『日本語』の現在と将来」というテーマで三つの分科会が行われた。最後の包括会議では各分科会の報告がされ、白熱したディスカッションが繰り広げられた。日本語学習者が背負っている価値観や歴史的背景と日本語教育との関わりについての示唆に富んだ、実りのあるシンポジウムであった。

彼都迎日本語作文コンテスト

7月9日、台北老爺大酒店にて彼都迎日本語作文コンテストの表彰式が行われた。今回で第9回を迎え、応募作品も1000点を超えた。そのうち日本語を専攻している大学生の応募が大半を占め、このコンテストを目標に作文力を磨く学生も多い。「高級中学・高級職業学校の部」では呉佳穎さん（忠信高中）の「おじいさんのチャーハン」が、「大専院校（日本語専攻以外）の部」では范凱琪さん（国立屏東商業技術学院）の「私の一番大切な宝物」が、そして「大専院校（日本語専攻者）の部」では陳曉菡さん（静宜大学）の「今、変えたいこと」と林岱螢さん（東呉大学）の「未来の妹へ」がそれぞれ最優秀賞を受賞した。

蔡茂豊氏、旭日中綬章伝達式

4月29日、平成17年春の外国人叙勲が発表された。台湾からも、蔡茂豊氏（東呉大学客員教授）が日本語教育の発展に寄与した功績により旭日中綬章を受章した。台湾人の受章は1972年に日台の国交が断絶して以来初めてのことである。勲章・勲記の伝達式は、6月28日、交流協会台北事務所代表公邸にて蔡氏のご家族、現在の台湾日本語教育界をリードする多くの教え子たちに見守られる中、執り行われた。



蔡茂豊氏と夫人

蔡氏は今回の叙勲に際し、「この受章は私個人の功績に帰せられるものではなく、台湾で日本語教育に携わっているあらゆる関係者の努力、協力の賜であり、その意味で、台湾の日本語教育界を代表して受章したものと受け止めている」と語った。池田交流協会台北事務所代表からは「この受章が台湾で日本語教育に携わる関係者の励みとなり、日本語学習者が一層増えること、また、今後更に広範な分野においてより多くの台湾人が叙勲されることを期待する」との祝辞が贈られた。

第29回中等教育機関日本語教師研修会

6月25日、第29回中等教育機関日本語教師研修会が日本語センターにおいて開催された。今回の研修会では、甄曉蘭氏（国立台湾師範大学教育学部教授）、および張麗珍氏（台北市立士林高級商業職業学校講師）により、「日語創新教学設計（日本語教育における創造的カリキュラムデザイン）」というテーマで、講義とワークショップが行われた。



甄曉蘭氏

午前の部では、「多面的・創造的な学習」をキーワードに、学習目標の設定、コースデザイン・シラバスデザイン、学習内容の相互関係、教授法と教室活動のデザイン、学習者とのコミュニケーション、教授活動に対する教師の自己評価などに関する講義が行われ、午後の部では、午前の講義を受け、実際にどのような教室活動が展開できるかという視点から、日本語教育に特化した講義と実践報告が行われた。



張麗珍氏

実際に、講師が教えている学校で取り入れた様々な教室活動を受講者とともにやり、学習者の目から見た体験をすることによって、理論の実践化が非常にわかりやすく伝えられた。

2005 年度日本語教育夏期研修会

8月28日から9月3日にかけて、台北(交流協会日本語センター)・台中(東海大学)・高雄(文藻外語学院)において各2日間(台中のみ1日)の日程で開催した。研修会は横溝紳一郎氏・柳瀬陽介氏(両氏とも広島大学教育学研究科助教授)を講師に迎え、



横溝紳一郎氏

「教室内での教師のことは：理論と実践」をテーマに、「ティーチャートーク」と、「媒介語使用(中国語や台湾語)」について、実際の授業の映像を見ながら授業分析を体験し、教師が日常的に使用している言葉や行動を意識化することの重要性について考えた。また、他の教師と授業を共有し合い、「研究」という形で公開し、意見・情報を交換



柳瀬陽介氏

し合うことがより良い授業の実現のための有効な方法であるなど、「現場」を「研究」に結びつける理論的・実践的枠組みが提供された。悪天候にもかかわらず、多くの参加者が集まり、自己研修型教師のありかたについて、討論を重ねた。

2005 年度台湾人日本語教師本邦研修

この研修は杏林大学との共催で毎年夏休みに台湾人日本語教師10名を日本に招聘し、台湾の日本語教育のレベルアップ、リーダーとしての人材育成を目的に、八王子キャンパスにて三週間の研修を行っている。研修は今年で8回を迎え、一流の講師陣による「日本語教授法」「コンピューターを使った日本語教育」「教材研究」など、日本語教育関連分野を学ぶほか、凡人社や国際交流基金訪問、伊豆修善寺への研修旅行が行われた。

参加者からは、日頃仕事に追われる中で新しい知識を得、自らの教え方を内省する機会になったことや他校の教師と情報交換ができたことを喜ぶ声が多く聞かれた。今後参加者がここで築いたネットワークの力を利用し、台湾における日本語教育の発展に寄与されることを期待したい。

【本邦研修参加者】

- 団長：黄招憲(高雄餐旅学院 通識教育中心)
副団長：陳麗貞(銘伝大学 応用日語系)
劉秋燕(屏東商業技術学院 応用日語系)
翟翠翎(北台科学技術学院 応用外語系)
王珮瑜(興国管理学院 応用日語系)
陳志坪(義守大学 応用日語系)
賴家姫(慈濟大学 東語系日文組)
陳慧珍(台湾海洋大学 外語教学研究中心)
陳玉紹(樹人医護管理専科学校 応用外語科)
洪昭鳳(文化大学 日本文学系)

日本語センターの活動予定

2005 年度 第2回特別講演会

テーマ：ビジネス社会で求められる日本語 2
講演者：蔡政奮(育達技術学院 応用日語系講師)
高貴敏(保聖那管理顧問股份有限公司)
協力：蔡如婷(保聖那管理顧問股份有限公司)
日時：10月1日(土) 14:00~16:30
会場：交流協会台北事務所文化ホール(地下1階)

第30回 中等教育機関日本語教師研修会

テーマ：ひらがなの教え方、アイデア・シェアリング
講師：邱英英(華僑高中講師)
堀越和男(交流協会日本語専門家)
津留紀子(交流協会日本語専門家)
日時：10月22日(土) 14:00~17:00

第31回 中等教育機関日本語教師研修会

テーマ：おおぜいでも、話して学べる楽しい日本語
講師：小川京子(対外貿易発展協会講師)
日時：12月10日(土) 14:00~17:00

日本語教育における通訳・翻訳教育の講演会

(以下の日程で特別講演会を開催)

- 日時：10月23日(日)
講師：周偉琴(中国文化大学推广教育中心講師)
- 日時：11月6日(日)
講師：林炳奇(PA通訳研究会講師)
- 日時：2006年3月25日(土)
講師：楊承淑(輔仁大学翻訳学研究所)

ディベート関連の研修会及び説明会

- 第1回
テーマ：「日本語教育とディベート —指導と実践—」
講師：関口要(樹人医護管理学校講師)
日時：台北 10月15日(土) 14:00~16:00
高雄 10月22日(土) 10:00~12:00
(高雄会場：国立高雄餐旅学院)
- 第2回
テーマ：「ディベートの技法 —学生対象説明会—」
講師：羅濟立(東呉大学日本語文学系助理教授)
永井江理子(真理大学応用日語系専任講師)
日時：高雄 12月10日(土) 13:00~15:00
台北 12月11日(日) 13:00~15:00

第2回全国大学生日本語ディベート大会

日時：2006年3月4日(土)・5日(日)
会場：東呉大学
論題：「台湾は炭素税を導入すべきである」
申し込み：高雄事務所文化室(2005年12月1日締切)

以上詳細は <http://www.koryu.or.jp/nihongo/> を参照。

台湾日本語文学会例会

203 回例会 日時：10月15日(土) 10:00~12:00
 204 回例会 日時：11月19日(土) 10:00~12:00
 場所：台湾 YMCA 城中会 008 室
 (http://www.geocities.jp/taiwan_nichigo/index.html)

文藻外語学院 文藻週

日程：10月18日(火)~21日(金)
 場所：文藻外語学院
 行事：ディベート大会(18日)・朗読コンテスト(19日)
 ・卒業公演(20日)・スピーチコンテスト(21日)
 問い合わせ：鍾小姐 07-342-6031 内線 5503
 (http://www.wtuc.edu.tw/japanese/)

台湾応用日本語秋季学術研討会

日時：10月22日(土) 13:00~
 場所：高雄餐旅学院
 問い合わせ：台湾応用日本語学会事務局 葉怡芳小姐
 07-806-0505 内線 1200

東呉大学主催**第7回全国高校生日本語スピーチコンテスト**

日時：10月29日(土) 13:30~17:30
 場所：東呉大学 傳賢堂
 問い合わせ：東呉大学日語系 02-2881-9471 内線 6524

台湾日本語言文芸研究学会

[2005年日本語文化研究国際学術会議]
 日時：11月19日(土) 9:00~
 場所：長栄大学
 問い合わせ：応用日語系 06-278-5123

日本アジア航空主催**日本語スピーチコンテスト**

- 第22回北部地区大会
 日時：11月19日(土) 9:00~
 会場：台北シェラトンホテル17階
 問い合わせ：JAA 台湾支社広報 02-2776-8232~4
- 第15回南部地区大会
 日時：11月26日(土) 9:00~
 会場：高雄漢来ホテル4階
 問い合わせ：JAA 高雄支店総務 07-236-4109

教育部・中央廣播電台・交流協会主催**高雄第一科技大学・東海大学・銘伝大学共催****94 学年度全国大専校院日語演講比賽**

今年度より実施要領が変わります

- 予選(3つのエリアで実施)
 南部予選：11月20日(日) 高雄第一科技大学
 中部予選：11月26日(土) 東海大学
 北部予選：11月27日(日) 銘伝大学(士林キャンパス)
- 決勝
 日時：12月18日(日)
 場所：(財)中央廣播電台4階 国際廳
 問い合わせ：(財)中央廣播電台 02-2885-6168 内線 722
 (http://www.cbs.org.tw/)

2005 年日語教育学会国際シンポジウム

日時：12月3日(土) 9:00~17:30
 場所：国立政治大学公企中心綜合大樓 201・202 教室
 問い合わせ先：頼庭筠小姐 02-2939-3091 内線 62166
 (http://140.119.172.157/tjea/meeting.htm)

2005 南台科技大学語文學習者国際学術研討会

日時：12月2日(金)・3日(土) 9:00~
 場所：南台科技大学 E 棟 13 階
 (http://www2.stut.edu.tw/index.php)

台湾日本語文学会**2005 年度日本語文シンポジウム**

日時：12月17日(土)
 場所：台湾 YMCA 城中会 2 階
 問い合わせ：学会事務局 02-2621-5656 内線 2958
 (http://www.geocities.jp/taiwan_nichigo/index.html)

高雄事務所 日本語教育実践講座

テーマ：「日本語研究・日本語教育のコーパス利用」
 講師：滝沢直宏(名古屋大学大学院教授)
 日時：2006年1月7日(土) 14:00~17:00
 会場：高雄(詳細は未定)
 (http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/)

お詫びと訂正

6月20日発行「いろは」19号の記載内容に誤りがありましたので、下記のように訂正いたします。読者並びに関係者の方々にご迷惑おかけしましたことをお詫び申し上げます。(赤字部分が訂正箇所です)

● 2ページ (表) 言語別第二外国語履修者数の推移

	合計	
	クラス数	人数
86 学年度	104	2,549
88 学年度	412	4,600
92 学年度	559	9,306

↓

	合計	
	クラス数	人数
86 学年度	104	2,549
88 学年度	412	14,600
92 学年度	560	19,306

● 4ページ右 1行目(3行脱落)

ごく普通の親しい者同士の会話です。たったこれだけの会話の



や、ちょっとね。この先の公民館に、用事があるねえ。公民館に行ってあのいやな館長の顔を見ないといけないのだが。

ごく普通の親しい者同士の会話です。たったこれだけの会話の

● 5ページ左 下から3行目

中国文化大学の張雅婷さん → **銘伝大学の張雅婷さん**